

今月の株式市場見通し

2010年は、日本株が世界の株式市場をアウトパフォームするという大きなサプライズで始まりました。(1)円安、(2)輸出の回復、(3)景気回復の拡がり、(4)外国人の投資資金流入を背景に、年初から1月中旬にかけて日本株は大きく上昇しましたが、1月末にかけて上昇は一服となり、株価の調整局面に入ったとの市場関係者の声も聞かれています。予想以上に良好な米国のマクロ情勢が日本株のアウトパフォーマンスを促している一方で、米国・中国の金融規制案や出口戦略、根強いデフレ圧力、進展していない日本の構造改革、バリュエーション(投資の価値判断や事業の経済性評価)の懸念がリスクファクターとなっており、しばらくは相場の上昇余地は小さく、年末年始のラリーを一時的に調整、株価は揉み合う過程にあると考えております。

しかしながら、依然として中国やインドなどアジア新興国を始めとした世界的景気回復への期待は高まっており、新興国における経済成長と欧米における需要回復の恩恵を受ける企業が多い日本株への期待感は、引き続きマーケットの下支えになると予想しております。

また、日本株は、昨年比アジアの新興国株式や米国株と比較して未だ出遅れ感があり、管財務相の就任と日銀による量的緩和策の継続見通しが相俟って、短期的に行き過ぎた円高が修正される可能性も高く、自動車等の輸送用機器、電子機器、機械、商社等の円安恩恵銘柄が、再度、クローズアップされる局面になろうかと思われま

株 練 場

2010年
2月号

西村証券

本店営業部

TEL075-221-9390

株練場コラム

最近の映画や本(漫画を含めて)の傾向を見ると、「絆」の大切さをテーマとしたものが多いと感じます。今の日本の世相を反映し、社会や家族、地域のあり方を見つめ直そうとしているのでしょう。先日も某放送局のニュース番組で「無縁社会 ニッポン」と題したシリーズを見ましたが、何とも悲しく、寂しい思いがしました。

内容は、「ここ数年「身元不明の自殺と見られる死者」や「行き倒れ死」など国の統計では分類されない「新たな死」が急増しており、「新たな死」の軌跡をたどると、日本が急速に「無縁社会」ともいえる絆を失ってしまった社会に変わっている実態を浮き彫りにしていました。「無縁社会」はかつて日本社会を紡いできた「地縁」「血縁」といった地域や家族・親類との絆を失っていったのに加え、終身雇用が壊れ、会社との絆であった「社縁」までが失われたことによって生み出されたものであります。ある意味、日本人が選択した結果である「無縁社会」。大切な「いのち」が軽んじられている私たちの国、社会のあり方が問われている。」というものです。

番組の中で、映画監督の山田洋次さんが「人間関係は面倒なものだ」と言われていました。確かにそういう側面もあると思いますが、決して自分ひとりの力で生きている訳でもありません。

困った時には、家族や隣人、職場の同僚に支えてもらう、それをためらってしまう風潮は、いかにも水臭いのではないのでしょうか。何らかの絆を大事にして、お互いに協力していく姿ほど美しいものはないと思います。

西村証券株式会社 NISHIMURA SECURITIES CO., LTD.

〒600-8007 京都市下京区四条通高倉西入立売西町65番地

金融商品取引業者 近畿財務局長(金商)第26号 加入協会:日本証券業協会 主な事業:金融商品取引業

本書面は特定の金融商品の勧誘を目的として作成したのではなく、あくまで情報提供を目的とした書類です。書面上の株式市場見通し等は、本書面作成時の当社予想ですが、その後の市場動向・結果・影響等について当社が保証または責任を負うものではありません。また内容については予告なしに変更される場合もあります。本書面の著作権は当社に帰属します。当社の文章による承諾なしに、第三者への配布・コピー等はご遠慮下さい。